

感染症情報 7月16日～22日

府下小児科198医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	812例(堺市	44例)
②ヘルパンギーナ	390例(堺市	24例)
③溶連菌感染症	369例(堺市	52例)
④RSウイルス感染症	230例(堺市	40例)
⑤手足口病	217例(堺市	12例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	5例(堺市	1例)
---------	-------	-----

が報告された。

感染症報告数は前週比11.9%減の2,351件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、手足口病の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週より12%減、堺市では前週より10%増であった。ヘルパンギーナは府下で前週より26%増(7週連続増加中)、堺市で17例→24例は41%増であった。溶連菌感染症は府下で前週より30%減、堺市では前週85例→52例で39%減であった。RSウイルス感染症が府下で前週183例→今回230例で26%増、堺市で前週31例→今回40例で29%増あった。手足口病は府下で前週より23%減、堺市では前週9例→今回12例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。